

哲學研究

第四十六卷 第五册

第五百三十五號

昭和五十三年六月十日發行

歴史知識における理論(二)……………

クルト・ヒュブナー
神野慧一郎譯

絵画空間について(中)……………

——アルベルティとヒルデブランド——

新田博衛

デカルトの合理主義について(二)……………

——理性の意義と役割——

山田弘明

書評

アカデミー版『シェリング全集』第一卷

……………大橋良介

京都大學文學部内
京都哲學會



京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
 - (一) 會誌「哲學研究」を發行する
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會は賛助員若干名をおく 賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年二、〇〇〇圓（會誌三冊分を含む）を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

池田義祐 柿崎一 梶山好能 木會善 酒井修三 清水一 杉山公一 辻村久 中谷裕 西谷裕 長谷正 服部正 平野俊 藤澤令 水垣一 武藤良 本吉一 森口美都 山田幸 湯淺田 吉田幸 岡健二 吉田幸 湯淺田 吉田幸 岡健二

- (47) Elisabeth Ströker, *op. cit.*, S. 155. ~ S. 161.
 - (48) Elisabeth Ströker, *op. cit.*, S. 160.
 - (49) これらの点についてはアルンハイム『美術と視覚』上(波多野・関訳 美術出版社)一二八―一三一ページ、二二〇ページ、二二四―二二七ページ参照。
 - (50) Erwin Panofsky, *op. cit.*, S. 109.
- (未完)
- (にった ひろえ 京都大学教養部助教授)

次 号 論 文 予 告

「現實」……………	森口美都男
マックス・ヴェーバーにおける	
理解の方法(二)	西谷 敬
ヒュームに於ける「外界」と	
「自我」の問題(二)	田 中 進
カントの義務論……………	長岡 成夫

前 号 目 次

トマス・アクイナスにおける	
《Causa rerum》と「神」……………	山田 晶
——Sum. theol. I, q. 14, a. 8.——	
藝術過去論……………	ヤン・パトチュカ
	米澤 有恒 譯
藝術的氣分について……………	太田 喬夫

する当時の書評や風評を伝えており、我々は過ぎし時代の現前を楽しむことができる。

二・三 『最古の世界の神話、史的説話、哲学説話について』
 (Über Mythen, historische Sagen und Philosopheme der ältesten Welt, 1793) 及び『哲学一般の形式の可能性について』
 (Über die Möglichkeit einer Form der Philosophie überhaupt, 1794) は共にシュレーターのいわゆる主要部(Hauptbände)に収められており、通常シュリングの初期の論文と見做されていたものである。シュリング研究史はこの二つの作品から出発したと言っても良い。ここでは厳密なテキスト批判のもとでこの二作が採録されると共に、その成立史、影響史が明らかにされる。K・F・A・シュリングの全集で我々の見ていたテキストは幾つかの版の一つにすぎず、且つそれらが多くのヴァリエーションを含んでいたことを我々は初めて知る。又周知の如く後者の論文の成立史、影響史に関してはフィヒテとの関係が問題となるのであるが、それについても「編集報告」は当時の資料を伝えてくれる。のみならずこの著をめぐるヘーゲルやヘルダーリン等の書簡も報告抜粋される。尚この著に対し酷評に近い書評が出たが、これに対しシュリングは『声明』(Erklärung)を出して、次の論文『哲学の原理としての自我について』の序文で自分の立場をより詳細に述べたことを予告するにとどめている。この書評も声明も共に収録されているので、これを通して我々はシュリングやフィヒテの新しい哲学が、そ

の出現当時、どういふ無理解と拒否反応に遭遇したかを知ることが出来る。その拒否反応は根底ではどの時代にも共通して見られる、真の哲学精神に対する常識の拒否反応とも見ることが出来る。

アカデミー版シュリング全集第一巻の1はこの『声明』で終る。既にこの一巻からも言えるが、これから数十年に亘ると予想されるこの全集編集事業は、その都度の成果の刊行をそのままドイツ観念論研究史の足跡として刻むであろうことは想像に難くない。

最後にこの拙き書評に更に蛇足を添えることが許されるならば、筆者は日本人としてこの全集事業の成果を一体どのような仕方で自己のものとなすべきかという自問を禁じ得ない。この全集に基づいて批判的、史的研究を進めることは差し当っての必要な途には違いないが、哲学本来の立場からはこの仕事自体は一つの予備的段階にとどまる。我々としては、このような仕事を基礎としつつもう一步を進めて、シュリングを遠い西洋の地にはなくてはなくて足下の地盤の内に看取することが要請されるように思われる。大きな思想家は異国の遠い過去の中によりはむしろ、足下の現在の内に出会われるように思える。

(筆者 滋賀医科大学講師)

編集後記

本誌「哲学研究」の編集委員であられ、執筆者としても多年にわたって御活躍になり、本会が大変お世話になりました

有賀鉄太郎先生（キリスト教学）が昨年五月二十五日に御逝去されました。会員の皆様と共に、先生の御冥福をお祈り申し上げます。

編集委員一同

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會（振替口座京都四〇三九番 京都哲學會）宛に規定の會費（年二、〇〇〇圓）をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入及び發賣に關する一切は東京都千代田區一番町一七番地創文社（振替口座東京二一九二四七二番）宛に願います
一、會員の轉居・入退會の事務及び編輯事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編輯に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和五十三年 六月 五日 印刷
昭和五十三年 六月 十日 發行

編輯兼 京 都 哲 學 會
發行人 京 都 哲 學 會
編輯代表 杉 山 聖 一 郎

賣 捌 所 株式會社 創 文 社

久 保 井 理 津 男

東京都千代田區一番町一七番地
振替口座 東京二一九二四七二
電話東京二六三二七二〇（代表）

印 刷 所 中 光 印 刷 株 式 會 社
東京都豊島區高田一―二―一四

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金送料共（一部、定價七〇〇圓、送料・四〇圓）前金にてお送り下さい

昭和五十二年六月十五日發行

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLVI

June, 1978

No. 5

On Theories in historical Sciences (2)..... Kurt Hübner

Space and Painting (2) Hiroe Nitta

Sur le rationalisme de Descartes (2)

— *Étude sur les significations et les rôles*

de la raison — Hiroaki Yamada

Rezension

Friedrich Wilhelm Joseph Schelling, Historisch-kritische

aunsgabe, Bd. I, I. Ryosuke Ohashi

Published by

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto Japan

七〇〇圓